

実践例「学習指導の充実・深化」

課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善と充実

I 学校名 深川市立北新小学校

II 研究概要

1 研究主題

「対話型校内研修」による授業改善～学び続ける力の育成～

2 北海道へき地複式教育研究連盟研究 第Ⅱ期第10次長計との関連

本校はこれまで、「主体的・協働的な学びによる確かな学力の育成」を主題に設定しICTを活用した授業実践を通して主体的で協働的な学びの育成についての研究を進め、その成果として、児童がICTを活用しながら、主体的・対話的に学習に取り組む姿が見られるようになった。

中央教育審議会は、『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』(令和4年答申)で「新たな教師の学びの姿」として「主体的な姿勢」「継続的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の4つを示した。これを受け本校では、教師が自ら問いを立てて実践を積み重ね、振り返り、次につなげる学びをデザインすることが必要であると考えた。

また、学校が抱える課題はさらに複雑化・高度化している。その解決のためにも、教職員の多様な専門性を発揮し、高め合う同僚性を構築することが大切である。互いの実践を尊重し合い、自らの専門性を発揮できる学びの場は、教職員が生き生きと働くことのできる職場づくりを実現させることにもつながり、そのことが、子どもたちにとっての質の高い教育につながると考える。

以上のことから、授業者の資質・能力の向上に関する「仮説検証型校内研修」から、日々の教育活動の課題のアイデアを共有し、方向性を合致するための「対話型校内研修」へと変更した。

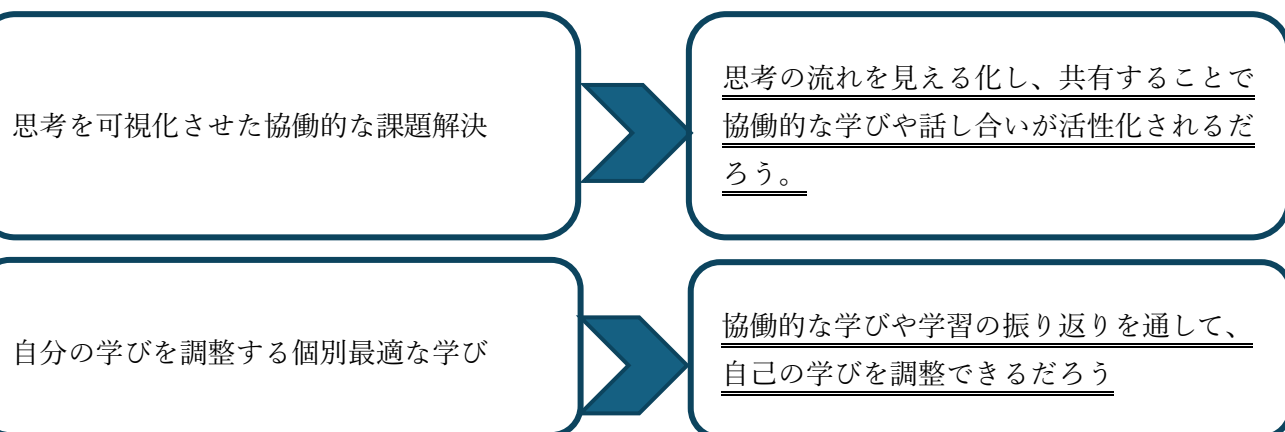
それぞれの教職員の専門性や自律性を生かした実践を校内研修の場で共有し、新たな実践のアイデアを発見・想像する本校内研修は一般化された「正解」の模索ではなく、本校の強みを生かした「納得解」の創造となると考える。

その研修の中で、今年度の目指す資質・能力を「学び続ける力」と位置づけ、①協働的な課題解決、②自分の学びを調整する力、③情報を精査し自分の考えを形成する力、④交流の中で自己の考えを更新・再構成できる協働的な学びの場の4つの視点で研究をすすめている。

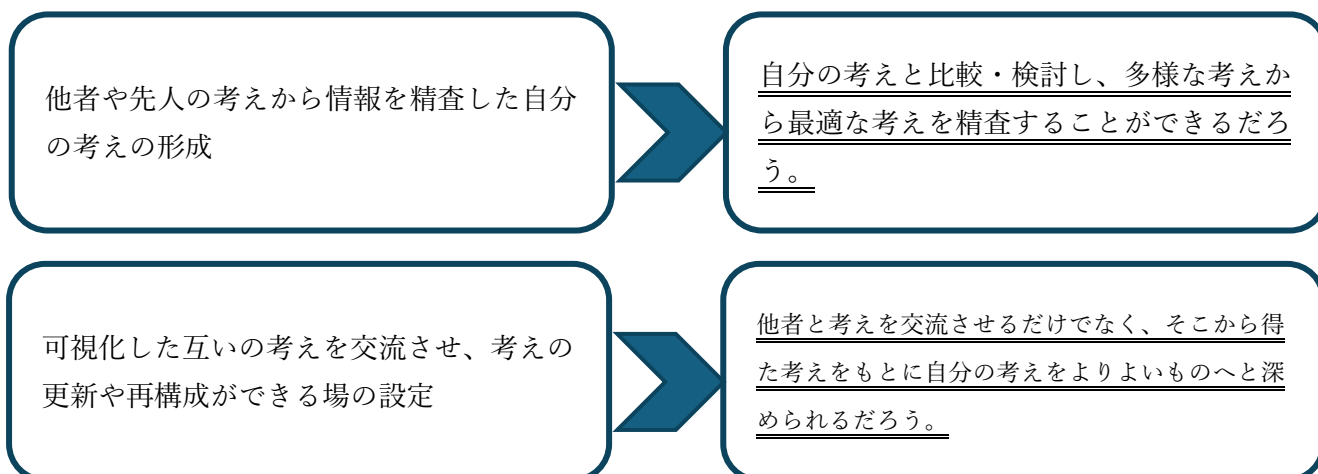
本校が目指す「協働性」と「自己調整」は、課題6が目指す主体性育てる目標につながるものである。本校の実践が北海道のへき地複式教育に生かされることを願っている。

3 研究の内容

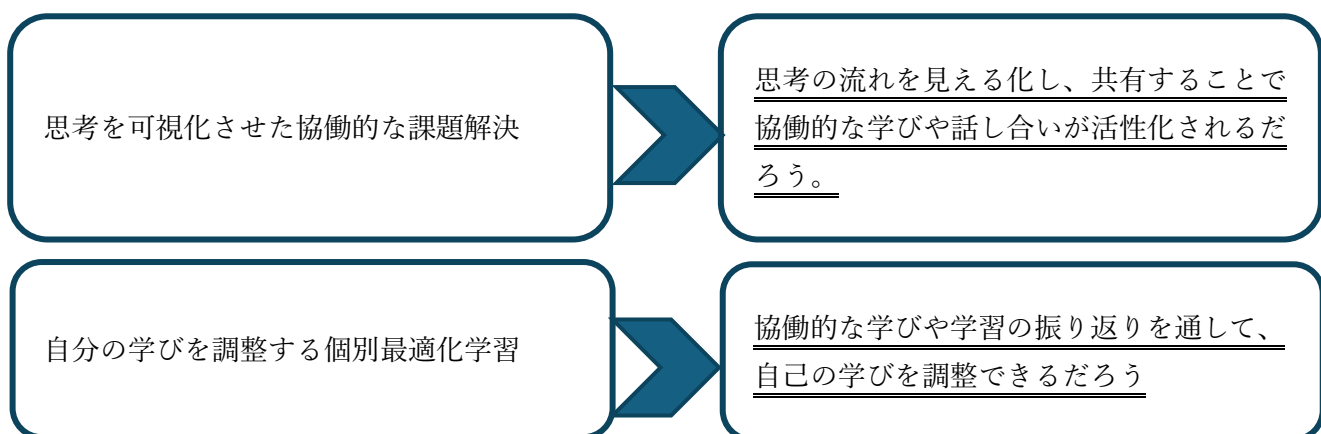
① 主体的・対話的な学びの実現



② 深い学びの実現



③ ICT の効果的な活用



Ⅲ 実践

日常の指導で大切にしていることを交流し、授業の中で確認、振り返りを行いながら、「学び続ける力」の育成をより高める授業の在り方を模索している。以下、担任が日常の指導で行っていることや大切にしていることを実践として紹介する。

1 低学年

- ・困ったときは友達に質問すること、助けを求めること、分からないことは恥ずかしくないことの指導を徹底。
- ・(自分だけが出来て終了ではなく)友達の考えや困っていることを聞いてヒントを出してあげること
- ・自分たちで学習を進められるよう、「困ったら友達(笑顔で)相談する！」ということの指導。
- ・課題は自分の分かり易い言葉で表現しなおして良いことにしている。
- ・単元の目標と学習の見通しを大事にしてきた。学習の流れをおさえることで、毎時の課題を想起しやすい。



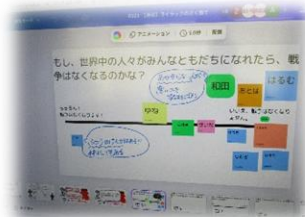
2 中学年

子どもたちの「読む力」を土台とし、「自ら学び続ける力」を育成するため、3点を重視している。

第一に文章を読み解く際には、「結論」と「具体例」があることに気づかせることに留意している点である。この力は、ノートにまとめる際にも発揮される。子どもたちは本時の学習の「結論」を「つまり～である。」と表現し、それに対して「具体例」を「具体的に言うと～」と表現する。これは、子どもたちが自身の考えを言語化し、構造化する力を育成するために積み重ねた工夫である。

第二に、調べ学習の結果や自身の考えを整理するために「思考ツール」を継続的に活用している点である。今後、各教科の「思考ツール」の活用を通して身に付けた自ら読み解き、まとめる力を総合的な学習の時間の探求的な学びに生かしていきたいと考えている。

第三に、思考ツールは数種類から自分たちで選択できるようにしている点である。これは、自分たちの課題に対して「抽象」と「具体」を整理すべきなのか、「原因」と「結果」を整理すべきなのか、時系列を整理すべきなのか、などについて子どもの思考を働かせたいと考えたためである。



3 高学年

- ・日常の授業の中で「なぜ？」と問いかけ必ず根拠をもとにして答えるようにしている。
- ・主に学級のルールなど物事が行き詰まった際に、納得の行くまで話し合いを行うようにしている。さらに授業の中においても話し合い活動を取り入れ、相手の意見を聞いてから、自分の意見を話すようにしている。
- ・遠隔授業など、対面でない相手に伝えるためにはどうしたらよいか考え、より相手に伝わる伝え方を考え、意見を話すようにしている。
- ・問題を解決するのに困った際は、周りの友達に聞くような学級の雰囲気づくりを行い、聞かれた方も答えを教えるのではなく、どうやったら相手に分かってもらえるかを考え話すように努力している。



IV 成果と課題

成果

- ・自分たちで学習を進められている。
- ・計画と、課題を立てられるようになった。
- ・課題解決にむけて、みんなと話してすすめられるようになった。
- ・わかりやすい説明をしようする意識が高まった。
- ・課題解決をみんなで行う機会(システム・習慣)を意図的・継続的にもうけられた。
- ・みんなの意見をひとつにまとめられるようになった。
- ・自己管理の在り方を指導し、自己調整しながら授業に取り組めるようになった。
- ・KW チャート ベン図 タイムラインなどの思考ツールの効果と使い方を自分たちで選べるようになった。

課題

これらの成果を、次年度の新しい職員にも確実に引継ぎ継続していく必要がある。そのためにも現実践をより理論化させることも必要である。また、研修日のかぎらず日常から児童の様子や授業のことを話題にする職員室の雰囲気を継続して大切にしていける必要がある。